

第1 「目指す学校」

【教育目標】 規律ある学校生活を通し、「自由と規律」の教育理念を実現するため、以下の目標を掲げる。

- 1 品位と教養を高める。
- 2 新しい価値を生み出す自由の精神を養う。
- 3 国際社会で活躍できる知徳体の能力をバランスよく伸長する。

【目指す学校像】 心身伸びやかに、知を鍛え、徳を育てる学校

【育てたい生徒像】『人格を磨き、知性を育み、地道な努力で夢をつかむ生徒』

【スクール・ミッション】(設置者が各学校と連携し、在籍する生徒の状況や期待に加え、各学校の歴史や伝統、社会や地域の実情を踏まえて、各学校に期待されている役割、目指すべき学校像を目指すもの)

「才と徳を磨く」をスローガンとし、生徒の習熟度や到達度に応じた少人数授業を展開し、国際理解教育、部活動、生徒会活動及び学校行事を通して主体性の醸成に努めながら、人格を磨き、知性を育み、地道な努力で夢をつかむ生徒を育成する。

【アドミッション・ポリシー】(入学者の受入れに関する方針)

本校の考え方に共感し、以下のいずれかの項目に該当する生徒の入学を期待する。

- 1 将来、自分がどの分野で社会に貢献するのか明確な進路目標をもち、高校でその基礎を備えたいと真剣に願っている生徒
 - 2 規律ある生活態度が身に付いており、高校入学後板橋有徳高校生として、更に人格を磨いていく志をもっている生徒
 - 3 学習活動、部活動、学級活動、生徒会活動、ボランティア活動等で得た経験を引き続き生かしたいと考えている生徒
- ※ 特に推薦選抜においては、1から3の全てに該当し、コミュニケーション能力に富み、リーダーシップを有する生徒が望ましい。

【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す資質・能力に関する方針)

グローバルに展開する社会の一員として生きていくことができるよう、次のような能力・資質を育成する。

- 1 秩序やルール、マナーを重んじ、安定した生活環境を構築する。
- 2 主体的に社会に参加する。
- 3 変化する社会を見通し、対応する。
- 4 多様な価値観を踏まえて適切にコミュニケーションを図る。

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成及び実施に関する方針)

- 1 自律した生活力を高めるために、朝書写・朝学習を実施するとともに、授業はノーチャイム制とし、授業規律及び生活規律を確立する。
- 2 基礎学力を充実させ、論理的思考力を高めながら主体的に学ぶ力を育成する。そのために、必修科目を原則として1年次に設置、歴史総合は1年次に日本史及び世界史探究は2年次に設置する。各教科の学習においては、対話的な学習や発表活動を重視し、あらゆる教育活動で論理的思考力を育成する。
- 3 キャリアを設計する力を高めるために、社会とのかかわり方を考えさせ、自らから学び、課題を設定し解決する力を育成する。そのために、計画的、系統的、効果的な総合的な探究の時間を実施し、進路関係の行事を充実させ、選択科目を増やすとともに、全教員が進路アドバイザーとして、個々の生徒に応じたきめ細かな指導を実践する。
- 4 異なる文化を理解し、相互に尊重する力を高めるために、総合的な探究の時間やフィールドワークの場としての海外修学旅行、海外学校間交流を通して自国や他国の伝統・文化への理解を深めるなど、国際理解教育を充実させるとともに、外国語によるコミュニケーション能力の向上を図っていく。具体的には歴史総合は1年次に日本史及び世界史探究は2年次に設置し、書道科目を充実させ単位数も増やすとともに、特に英語科目を充実させ、単位数も確保する。

第2 「中期的目標と方策」について

【中期的目標と方策】

1 学習指導

(1) 目標	(2) 方策
適切な教育課程編成及び指導と評価の一体化	ア 単位制の良さを活かし生徒のニーズに応じた教育課程の編成 イ 適正な評価規準の設定と周知 ウ 教科会を核とした学力分析と効果的な指導方法の検証 エ 校内外における研修の促進 オ 教科における探究活動の推進

2 生活指導

(1) 目標	(2) 方策
規律と秩序の整った教育環境の創出	ア 「朝書写」に始まる落ち着いた学校生活の定着 イ ノーチャイム制を活用した、生徒自身の時間管理能力向上 ウ 生徒指導に関する方針・意義の共通理解 エ 生徒によるルール順守の呼びかけ オ 相互尊重の精神の涵養

3 特別活動

(1) 目標	(2) 方策
生徒の自尊感情向上及び不撓不屈の精神の涵養	ア 生徒主体の学校行事や部活動等の推進 イ 生徒が協働する機会の提供 ウ 成果発表の機会の確保 エ 適度の負荷がかかるチャレンジ目標の設定 オ 結果のみならずプロセスを重視した適切な称賛

4 健康教育

(1) 目標	(2) 方策
安心して通える学校づくり	ア 心身の健康の維持 イ 生徒相談体制の確立 ウ 安全指導（交通安全教育や防災教育等）の徹底 エ 熱中症、感染症防止対策の徹底 オ 校内の環境美化・整備

5 進路指導

(1) 目標	(2) 方策
学力向上と個に応じた進路指導	ア 総合的な探究の時間を始めとした計画的なキャリア教育 イ 生徒の学力実態の把握とデータに基づくきめ細かな指導 ウ 多様な入試形態に対応する組織的指導体制の確立 エ 個々の知識・技能を伸張させる多様な講習の実施 オ 一人1台端末等を活用した個別最適な学習の実現

6 広報活動

(1) 目標	(2) 方策
学校の特色・魅力の周知及び第一志望の受検生の増加	ア ホームページ及びX（旧ツイッター）等の有効活用 イ 生徒主体の学校見学会・学校説明会等の運営 ウ 国際理解教育の推進と周知 エ 都立学校の魅力向上に向けた新規プログラムの活用 オ 中学校及び私塾等への積極的な情報発信

7 組織運営

(1) 目標	(2) 方策
盤石な組織体制の構築	ア 服務規律の徹底 イ 校務の整理と見える化 ウ 起案による適正な文書管理 エ 都の推進校事業及び教育施策を活かした組織的対応 オ 協働体制の構築と職責に応じた責任ある行動

8 働き方改革

(1) 目標	(2) 方策
働きやすい職場づくり	ア 無理と無駄のない組織づくり イ 長時間労働の解消と適切な健康管理 ウ 教職員のモラールアップ エ 教職員相互のコミュニケーションの活性化 オ 様々な課題に関する相談環境の整備

第3 「今年度の取組目標」

今年度、本校が東京都教育委員会の指定を受けている事業は、以下のとおりである。

- | |
|---|
| <p>A 進学指導研究校
B 学力向上研究校（校内寺子屋、①定期的な学力調査、②チューターを活用した放課後学習支援）
C スキルアップ推進校（①グローバルスキル講座（実用英語検定講座）、②デジタルスキル講座、③職場体験を通じた企業人とのコミュニケーションスキル講座）
D 海外学校間交流推進校
E 海外探究フィールドワーク指定校【TIPS-Type 3】</p> |
|---|

これらを適切に活用しながら、生徒一人一人の力を伸長する魅力ある学校づくりを進めていく。

1 学習指導（教務部・進路指導部・各教科）「適切な教育課程編成及び指導と評価の一体化」

- ア 単位制の良さを活かし生徒のニーズに応じた教育課程の編成
教職員の単位制に関する理解の深化を図り、その特長を生かした教育課程を編成する。
習熟度・到達度別授業や2, 3年次共修科目を、その効果が十分発揮できるよう改善する。
学校外の学修による単位認定を積極的に活用して、上級学校での学びや各種検定の取得を促進し、生徒の積極的な学びを支援、評価する。
- イ 適正な評価規準の設定と周知
観点別学習状況の評価の適切な実施に向け、全ての教科・科目で年度当初に評価規準を明確にする。
- ウ 教科会を核とした学力分析と効果的な指導方法の検証
教科会において模試分析結果等による生徒の学力推移に係る情報を共有し、授業内容や効果的な指導方法の在り方を見直し、授業の修正を図る。
- エ 校内外における研修の促進
授業参観・研究授業及び教職員研修センターや民間教育機関主催の研修受講を推奨する。
- オ 教科における探究活動の推進
各教科・科目において、生徒が自ら課題を設定し、相互の話し合いや史資料との対話等を通じた探究活動を推進する。
- カ 一人1台端末等を活用した個別最適な学習の実現
外部専門機関のクラウドサービスの諸機能を最大限に活用して、個別最適な学習を実現する。
全教職員がクラウドサービスを活用できるよう、生徒・保護者・教職員を対象とした説明会や研修会を実施する。

2

生活指導（生活指導部・全教職員）「規律と秩序の整った教育環境の創出」

- ア 「朝書写」に始まる落ち着いた学校生活の定着
一日の開始に当たり心を落ち着かせて授業に臨む姿勢を身に付けさせる。
- イ ノーチャイム制を活用した、生徒自身の時間管理能力向上
ノーチャイム制の下で、生徒が時間を意識し、自分の行動を管理する能力を高める。
- ウ 生徒指導に関する方針・意義の共通理解
本校生活指導規定の共通理解の下、全教職員で遅刻指導や身だしなみ指導及び問題行動防止に努める。
- エ 生徒によるルール順守の呼びかけ
当事者たる生徒が、主体的に、様々なルールの意義を理解し呼びかけていくことにより、生徒全体の規範意識を向上させる。
- オ 相互尊重の精神の涵養
全教育活動を通して、お互いを尊重し、差別や偏見、いじめや嫌がらせのない学校づくりを推進する。

3 特別活動（生活指導部・部活動顧問・担任・委員会担当）「生徒の自尊感情向上及び不撓不屈の精神の涵養」

- ア 生徒主体の学校行事や部活動等の推進
各行事を担当する係生徒及び部活動生徒が、自ら考え、行動できる場を提供する。
- イ 生徒が協働する機会の提供
生徒が所属する集団の中での役割を自覚し、お互いのコミュニケーションを大切にしながら協働する機会を提供する。
- ウ 成果発表の機会の確保
生徒の日頃の活動の成果を発表する機会を意図的・計画的に設定する。
- エ 適度の負荷がかかるチャレンジ目標の設定

- 生徒の潜在能力を見極め、一段高い目標にチャレンジさせる
- オ 結果のみならずプロセスを重視した適切な称賛
勝敗や入賞等の結果だけでなく、地道に努力を積み重ね、困難なことも克服できる生徒を育てる。

4 健康教育（生活指導部、保健体育科、生徒支援委員会、いじめ対策委員会、人権委員会 等） 「安心して通える学校づくり」

- ア 心身の健康の維持
生徒が「自分の健康を自分で管理」できるように支援するとともに、保健体育の授業や部活動等を通して体力の向上と健全な精神の育成を図る。
- イ 生徒相談体制の確立
生命の尊さを常に意識し、生徒個々の状況把握に努めるとともに、生徒が必要な時に、必要なことを相談できる組織体制を整える。
- ウ 安全指導（交通安全教育や防災教育等）の徹底
特に自転車乗車に係る交通安全指導（ヘルメット着用・保健への加入・雨の日のレインコート着用・その他マナー全般）を徹底するとともに、災害時の自助・共助・公助の精神の育成に尽力する。
- エ 熱中症、感染症防止対策の徹底
都のガイドラインに基づき、引き続き生徒の健康管理と適切な衛生管理に尽力する。
- オ 校内の環境美化・整備
日常の清掃活動を徹底するとともに、環境保全のためにごみの分別・減量に関する生徒の当事者意識を向上させる。

5 進路指導（進路指導部・全教職員）「学力向上と個に応じた進路指導」

- ア 総合的な探究の時間を活用した進路実現能力の育成、計画的、効果的なキャリア教育の実施
3年間のキャリア教育計画に基づき、進路指導部が学年や教科等と連携し、学年・時期ごとの目的を意識しながら、目標達成までのプロセスを重視した指導を実践する。
生徒に、探究活動や学習の成果を蓄積したキャリアパスポートを作成させ、自ら学び、課題を設定し解決を図る能力の育成や探究的な学びの成果の定着を図る。
- イ 生徒の学力実態の把握とデータに基づくきめ細かな指導
「進学指導研究校」として、全教員が、教科会や校内研修等の機会に、スタディ・サポート、模擬試験、外部検定試験、及び大学入学共通テスト等の得点、スコア及び偏差値等のデータを分析し、個に応じた指導を実施する。
- ウ 多様な入試形態に対応する組織的指導体制の確立
進路指導部主催の校内研修を実施するとともに、教員が積極的に大学説明会や大手予備校等民間教育機関の実施する教員対象の研修会に参加し、研修成果を文書（データ）で共有する。
1，2年次担任を除く全教員が進路アドバイザーとして、生徒の進路実現を積極的に支援する。そのため
の指導力向上に向けた研修を充実させる。
- エ 個々の知識・技能を伸張させる多様な講習の実施
「学力向上研究校」として、放課後等に国数英の基礎学力の定着状況が十分ではない1年次の生徒を対象とした学習の場（校内寺子屋）を提供する。
土曜日の午前中に、英検取得や大学等への進学を希望する生徒を対象として、国数英の講習を実施する。
専門学校と連携し、公務員志望の生徒を対象とした講習を実施する。
「スキルアップ推進校」として、夏季休業期間等に、外部専門機関と連携して、グローバルスキル講座、デジタルスキル講座、及び職場体験を通じた企業人とのコミュニケーションスキル講座を開講する。
その他、長期休業期間に、生徒のニーズに応じた講習を実施する。
- オ 国際理解教育の推進
総合的な探究の時間や教科を横断した探究学習をとおして国際理解教育を進め、フィールドワークの場としての海外修学旅行を実施することで、英語力の向上を図るとともに、グローバルな視点を持ち、行動できる力を身に付けさせる教育活動を展開する。

6 広報活動（総務部・全教職員）「学校の特色・魅力の周知及び第一志望の受検生の増加」

- ア ホームページ及びX（旧ツイッター）等の有効活用
ホームページ及びX（旧ツイッター）等を活用して日々の学校の様子を可視化し、積極的に発信する。

- イ 生徒主体の学校見学会・学校説明会等の運営
学校見学会や学校説明会等で、生徒に司会・案内・説明する役割を多く与え、来校者と本校生徒の直接交流の機会を提供する。
- ウ 都立学校の魅力向上に向けた新規プログラムの活用
本校のHP及び見学会・説明会・相談会を充実させ、「都立学校の魅力向上に向けた新規プログラム」を活用し、都立高校PR情報を一元的に提供したり、中学生・保護者・都民一般に対して集中的に広報を展開したりするなどして、PR情報を量と質の面から大幅に拡充する。
都民を対象とした書道及びラグビーの公開講座を継続的に開講する。
- エ 中学校及び私塾等への積極的な情報発信
地域の中学校や私塾等で一元的に行われる説明会・相談会等で必要な情報を精査し、全都に向け発信する。

7 組織運営（企画調整会議・各委員会・PT等）「盤石な組織体制の構築」

- ア 服務規律の徹底
平素からの注意喚起及び適正な服務研修の実施により、教職員の服務規律を徹底する。
- イ 校務の整理と見える化
全教職員が当事者意識をもって学校の課題を把握し、改善に向けて具体的方策を考察し、実行に移す。校務を適切に整理するとともに、その流れが誰にでも分かるように情報共有を図る。
- ウ 起案による適正な文書管理
電子起案により迅速で確実な文書管理を徹底する。
- エ 都の推進校事業及び教育施策を活かした組織的対応
すべての教職員が、本校のスクール・ミッションを理解し、その実現に向けて都の推進校事業及び教育施策を積極的・組織的に活用する意識をもって行動する。
- オ 協働体制の構築と職責に応じた責任ある行動
OJTガイドライン及び執務ガイドラインに基づき、職責を意識した人材育成のラインを確立し、リーダー層の教職員が適切に業務を進行管理できる校内体制を構築する。

8 働き方改革（管理職・全教職員）「働きやすい職場づくり」

- ア 無理と無駄のない組織づくり
個人の取組（点）を単発の取組に終わらせず、全体の取組（線・面）に高めることを目指した、学校として進むべき方向の共通理解に努めていく。
校内分掌とは別の委員会やPT等の意義と役割を踏まえ、整理・再構成を図る。
大量の印刷物のスリム化を図り、昨年度に引き続きペーパーレス化を推進する。
個人で作成しているデータや資料を全体のフォルダに格納し、共有することで、業務の省力化を図る。
- イ 長時間労働の解消と適切な健康管理
特定の教職員に負担が集中しないよう、担当業務の内容を精査し、校務分担の均一化を図る。
部活動指導員の適切な配置により、部活動に伴う長時間労働の解消を推進する。
- ウ 教職員のモラールアップ
面談や日常の対話の中で、個々の教職員がもつ課題意識を把握するとともに、改善に有効な提案を積極的に採用し、学校経営へ反映させていく。
また、教職員それぞれが力点を置き、継続的に活動していることや成果をあげていることを理解し、認め合っていくことができる、温かい雰囲気職場づくりに努める。
さらに、授業や部活動等、生徒の変容を実感できるデータ公開や、全校集会での表彰等を推奨する。
- エ 教職員相互のコミュニケーションの活性化
個人の力に頼っている業務の在り方を見直し、協働し組織的に対応できるよう、教職員相互のコミュニケーションを深める機会を意図的・計画的に設定する。
- オ 様々な課題に関する相談環境の整備
各教職員が悩みを相談し課題解決を支援できるよう、相談環境を整える。

第4 数値の経年変化と今年度（令和7年度）目標

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教員相互の授業参観延べ回数（回）	△280	▼159	△228	▼138	200
授業満足度（%）	△80	△90	90	▼83	90
英検準2級以上取得者数（人）※	△39	▼14	△29	▼17	30
夏期冬期講習時間数（時間）	△250	△268	▼240	△290	300
生徒の1日平均学習時間（分）	▼93	△106	111	111	120
大学入学共通テスト全国平均点比（%）	▼国75.6 ▼数IA61.6 ▼英67.0	△国80.3 △数IA84.3 △英71.5	▼国72.3 ▼数IA58.7 ▼英66.3	▼国58.2 △数IA66.3 ▼英56.1	国80.0 数IA70.0 英70.0
現役進路決定率（%）	▼89.6	△91.1	▼87.5	△96.4	97.0
4年制大学進学者数（現役）（人）	▼120	▼98	▼94	△97	100
私立大学（早慶上智理科）現役合格者数（人）	▼0	△2	2	国公立大学 1人	2
私立大学（GMARCH）現役合格者数（人）	1	△4	▼0	△2	4
私立大学（成成武明学）現役合格者数（人）	△2	△11	▼0	1	5
私立大学（日東駒専）現役合格者数（人）	▼7	8	7	▼5	10
就職者数（うち公務員数）（人）	▼11（2）	△15（2）	▼5（0）	△9（6）	10（8）
一日あたりのクラスの平均遅刻者数	▼1.3	▼2.0	△1.35	▼1.20	1.0
特別支援教育に関する委員会開催回数（回）	△11	△13	△15	▼13	15
統一体力テスト全国平均比（%）	男子 83 女子 83	男子▼82.5 女子▼80.7	男子▼80.3 女子△82.3	男子△82.1 女子▼81.3	男子 83 女子 83
部活動加入率（%）	△83	△83.3	▼73.9	△80.1	80
学校満足度（生徒）（%）	△79	△81	80	▼79	85
学校満足度（保護者）（%）	▼89	△90	▼79	△93	95
部活動満足度（生徒）（%）	▼49	△63	△67	△68	70
生徒会活動満足度（生徒）（%）	▼50	△65	△68	▼61	70
学校説明会等参加者数（本校実施分）（人）	△865	△1,175	△1,499	△1,820	2,000
中学校進学対策委員会志願倍率（倍）	▼0.59	△0.72	△0.88	0.88	1.20
入学選抜応募倍率（推薦）（倍）	▼1.33	△1.73	△2.05	▼1.90	2.10
入学選抜応募倍率（第一次募集）（倍）	▼0.79	△0.89	△1.13	▼0.99	1.20
ホームページ更新回数（回）	△250	△355	HP▼232 X 157	▼177 X156	HP300 X200
一般需用費のセンター執行率（%）	△52.4	△59.3	69.3	▼49.8	60.0